

日本植物覺書

(J. OHWI: Sertum Japonicum)

大井次三郎

22) **ムラサキナギナタガヤ** は北米産の *Festuca octoflora* WALT. の新和名である。本品は移入されたもので播磨國、厄神の加古川畔での田代善太郎氏の採集にかかる、ナギナタガヤとは小穂が紫色を帯びるのと花数が多い (5-13個) ので容易に區別される、本種やナギナタガヤ等一年生の群 (*Vulpia*) は元來本邦には自生がなく時には別屬として取扱はれる、STEUDEL が吾がトボシガラを *Vulpia* 群にしたのは穩當ではない、此れは根莖を有する多年生のもので雄蕊は三個あり、明にウシノケグサ等と同じく *Eufestuca* の一員である。

28) **オホトボシガラ** はタウトボシガラと同種で *Festuca extremiorientalis* OHWI である。北海道、本州、南千島、樺太、朝鮮から東部西比利亞、北支等に分布する。

23) **ツルスズメノカタビラ** 歐洲産の *Poa supina* SCHRAD. が盛岡で室井綽氏によつて採集された、此れは恐らく自生品ではない様に思はれる、スズメノカタビラに酷似して稈が倒伏し、所々に發芽、發根し、種子の外此れでも繁殖する點で區別される。

24) **ミサヤマチヤヒキ** の類は最近一年生の *Avena* と區別して *Avenastrum* が用ひられるが此れよりも *Helicotrichum* が早いので之れが使用せらるべきである。

Helicotrichum Hideoi (HONDA) OHWI comb. nov.—*Avena Hideoi* HONDA in Bot. Mag. Tokyo 40 (1926) 435.—Hab. Hondo media, in montibus.

25) **コシノネヅミガヤ** 本州中部の日本海岸に産するエダウチネヅミガヤは小穂の芒が短つ且彎曲する傾向があつて、別種ではないが著しい型であり又一一定した地理的の分布を持つて居るので變種として記載する。

Muehlenbergia ramosa (HACK.) MAKINO var. *curviaristata* OHWI var. nov.—Arista glumae fertilis plus minus curvata, quam gl. fert. subaequilonga.—Hab. Hondo media in montibus (Yetchu, Kaga, Hida, Shinano).—Typus: Kanetsuri, Kurobekyo in Yetchu (J. OHWI n. 7329 in Herb. Imper. Univers. Kyoto.).

26) 本邦産の **カウバウ** 屬、本邦には本屬は三種しか存在せぬ様である。一つは低地の **カウバウ** (*Hierochloe odorata* WAHLENB.) であつて相當の變異があり、二三種に分る人も、又變種を認める人もある。今一つは本州中部以北、朝鮮等の高山帯にある **ミヤマカウバウ** (*H. alpina* ROEM. et SCHULT.) である、オホミヤマカウバウ *H. monstrosa* HONDA) は小泉先生の採集品を見ると小穂の構造はミヤマカウバウと少

しも相違せぬから同種の畸形と考へられる、只葉身が少し巾廣いので *H. alpina* var. *vivipara* SCHEUTZ と同物か如何かは疑はしい、兎に角別種ではないから ***H. alpina* var. *monstruosa* KOIDZ.** が採用される。又北鮮の高山には葉巾が廣く、上部不實護穎の芒が穎の下部から出ず中央部から出るものがあるが基本種と混生するらしく、變種とも思はれる。最後の **エゾカウバウ** (*H. pluriflora* KOIDZ.) は北海道の夕張岳に知られ、時に *H. pauciflora* R. BR. と云はれたりするが無莖の葉が稈よりも長く成る點から、どうもそれとは別と思はれる、又 HACKEL が *H. alpina* var. *intermedia* HACK. とした植物はミヤマカウバウでは無く此種の芒の明かな型で、葉舌が平滑且三角形（ミヤマカウバウでは葉舌は短く截形、細毛がある）である點を見れば間違ふ事はない。

27) **イヌカモジグサ**は *Agropyrum Turczaninovii* DROB. に對する和名で、本邦では未記録ではあるが本邦で *Agropyrum caninum* LINN. (此種は邦領内には分布せぬ) と混同されて居るもの的一部分が之れに屬する、北鮮、千島を経て本州中部の信濃國、霧ヶ峰まで分布する、私が色丹島植物小誌に擧げた *A. Gmelini* SCRIBN. et SMITH. の學名の方が早い、それも以前に同名があるので使用出来ない。

28) **イハセンタウサウ** は *Cryptotaeniopsis Tanakae* DUNN. が用ひられて居るが、本屬は *Pternopetalum* FRANCH. の名が既にあるので本種は *Pternopetalum Tanakae* H. MAZZ. の方が正しい、

29) **ヒギリ**の學名は牧野博士よりも以前に *Clerodendron japonicum* (THUNB.) SWEET Hort. Brit. (1826) 322 の組合せがあるのでそれが正當な學名である。

30) **ハンノキ** も又 SIEBOLD et ZUCCARINI よりも前に *Alnus japonica* (THUNB.) STEUD. Nomencl. Botan. ed. 2: 1 (1840) 55 の改組があるので此れが正しい。

31) **ヤヘヤマイハタバコ** 本年植物研究雜誌第十三卷五號に新種として記録した植物で原標本の記載に當り葉は互生すると誤認したが、その後小泉先生の豊富な材料を拜見した所此れは對生であつたので訂正する。

會 報

本號亦田口繁藏氏の御寄附により會員諸氏に頒つを得たり。